



八音会



西山連



彦島連



じものせき馬関まつり



イスタンブールでの披露(2003年)



2016.9 ぶち★まちの誇り きらい

頃は寿永の四年の昔
奮るものは久しからず
譬の如く平家の軍勢
都落ちして鶴越や
四国屋島と追われに追われ
海を逃れてここ下関……

下関平家踊保存会

えた平家一門の供養に端を発したとされています。民衆の生活の中で盆踊りとして広まり、代々受け継がれてきました。

時代とともに形は変わりながらも、先人の技と想いを後世へ伝え、広める活動をしている「下関平家踊保存会」を紹介します。

地域の「盆踊り」から世界の「平家踊り」へ

昭和35年、市内各地の盆踊りを統一することになり、名称を「盆踊り保存会」から「郷土芸能・平家踊り保存会」と改めました。平家踊りを広く全国に広めることを目的に活動を始めます。近くは地元の盆踊り大会から、県内の物産展、遠くは、東京・京都・大阪へと市の観光宣伝のため、全国各地へ赴き実績を重ねました。

中国地方代表として「伊勢神宮奉納民謡大会」に、山口県代表として「大阪万国博覧会」に出演しました。その後「沖縄海洋博覧会」、昭和52年には「フランス・ニース国際カーニバル」へ出演。この出演を機に、各地域にあった5団体を一本化し「平家踊保存会」を発足しました。

現在は「八音会」「彦島連」「西山連」の3団体で組織され、約130人の会員が練習に励んでいます。

三味線・音頭・太鼓・踊り 醸し出す力強いエネルギー

練習場に近付くとワクワクする感覚に自然と体が熱くなります。体に響く太鼓の音、「二上がり」の三味線のテンポの速い独特のリズム。「ヤトエソーラエ・ヤトエノエ」と音頭の合間のおはやし気分を盛り上げます。皆さんが楽し

そうに踊る踊りは、こつさえつかめばすぐに仲間に入れそうです。平家踊りは三味線、音頭、太鼓、踊りで構成され、中でも、三味線は全体のリズム・テンポをリードする最も重要な役割を担います。踊りが始まるとばちと指が休まることはありません。

音頭は「源平音頭をはじめ、「那須の与」「引接寺くどき」など多数が口説かれています。

口説きはその一口目、または二口目に「ナガシ」「ユスリ」「フシ」などが入ることにより一層音頭が生きてきます。口説き方も大変難しく、口説き手にはセンスと技術が必要で

踊りの特徴は全国的にも珍しい「糸操り式」といわれる踊り方。糸を操るように腕を上下させ、11拍子という独特のテンポで踊ります。太鼓は左が低音、右が少し高い音程の二つの太鼓を専用の台の上に並べて設置します。太鼓の右前に空の酒樽を置き、細めのばちを両手に奇数拍子の速いテンポで打

ち鳴らします。平家太鼓の奇数拍子を基にした勇壮な打ち方は全国に類がなく、平家踊りは山口県を代表する伝統芸能として伝承されています。

伝統を後世に……

牛尾三雄副会長(彦島連会長)は、「会員ひとりひとりが気を引き締め、技を磨き、下関ならではの伝統文化を後世に伝えていきたい。若い人たちにも、郷土の誇りを受け継いでいってほしい」と熱い思いを語ってくれました。

練習場には次の時代の担い手の子どもたちの姿もあり、大人顔負けのばちさばきに頼もしくもありました。

★私たちと一緒に活動しませんか
★イベント出演も承ります
下関平家踊保存会事務局
(観光政策課内)担当:牛尾
(☎231-1350)

